

三澤知央

有機栽培で使用できる数種殺菌剤のエンドウうどこん病に対する防除効果と残効期間

Misawa T.

Control Effectiveness of Foliar Application of Several Fungicides Which Can be Used in Organic Farming, against Powdery Mildew of Pea and Its Duration.

北海道では有機栽培を含めた減農薬栽培を推奨しているが、これまでエンドウ(サヤエンドウ)の主要病害であるうどんこ病に関する研究知見はない。そこで、有機農産物のJAS規格において有機栽培で使用可能な5種殺菌剤について、2008～2010年に本病に対する防除効果と残効期間を圃場で調査した。各薬剤の葉、茎、莢に対する防除価および残効期間は、水和硫黄剤・500倍が100, 100, 99, 2週間、炭酸水素ナトリウム・銅水和剤・750倍が99, 91, 97, 2週間、脂肪酸グリセリド乳剤・300倍が99, 86, 97, 2週間、同剤・600倍が99, 67, 91, 1週間、炭酸水素ナトリウム水溶剤・800倍が95, 61, 92, 1～2週間およびバチルスズブチリス(商品名：インプレッショーン)水和剤・500倍が87, 54, 87, 1週間であった。いずれの薬剤も栽培上重要な葉および莢に対して防除価87以上の高い防除効果を示した。脂肪酸グリセリド乳剤の300倍液散布では葉と莢が黄変する軽微な薬害が3ヶ年とも発生したが、600倍液散布では発生しなかった。

(道総研道南農試)